

平成29年度入学生用カリキュラムマップ

【臨床教育学研究科 臨床教育学専攻 修士課程】

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号													
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目													
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性							
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2					
17MCEC1001	臨床教育学総論	1	日本の臨床教育学の開拓の試みは、1990年ごろから、新たに始まった。そうした臨床教育学の構想を、本学の臨床教育学研究科で蓄積されてきた研究・教育の努力と到達を踏まえながら、整理して提示する。	受講生のみなさんには、本講義の内容との関連で、臨床教育学のイメージを描き、自分自身の研究関心を明確にしてほしい。	◎	◎												
17MCEC1002	臨床教育学総合演習	1	子ども・若者の生育の過程、親・保護者の暮らしと子育ての営み、福祉・医療・心理臨床・教育、労働・行政・法律などの諸領域ではたらく「発達援助専門職」の実践などについての具体的事例を検討し、受講生のみなさんが、心理学・福祉学・教育学の研究視点の独自性と共通性を理解し、それらを総合しようとしている臨床教育学のイメージを具体的に描けるようにしたい。	領域横断的なカンファレンスの体験を通して、臨床教育的な事例報告とその検討の仕方を獲得することを目標とする。					◎									
17MCEC1301	課題研究Ⅰ	1	受講生の関心領域に関する知見を文献研究によって広げることが目的としている。文献は、書籍、雑誌を用い、扱った文献の理論的背景、方法などについて批判的に読み解く。このことを通じて自身の修士学位請求論文の問題意識を明確にする。	修士学位請求論文の問題部分に関する理論的枠組みを構築するため、受講者の問題意識を、理論的に整理し、他の研究者や学生に説明できるようになることを目標としている。								◎						
17MCEC2302	課題研究Ⅱ	2	各自の修士学位請求論文完成に向けての理論的検討と、関連諸領域の文献検討を通して、具体的研究の実現にある。	本授業の目標は修士学位請求論文の完成である。このため、次の各点までの到達が求められる。 1. 課題研究Ⅰにおいて明確になった各自の問題意識を文章表現する。 2. 研究の方法を明確化する。 3. 中間発表等の機会を通じて、自身の問題を批判的に考察できるようになる。 4. 修士学位請求論文の完成。										◎				
17MCEC1003	実地研究	1	自身の専門領域と異なる実践現場を訪問し、異なる視点から各自の実践や研究活動を振り返ることを目的としている。	自分の専門領域と異なる実践現場の見学を通じて、研究の広がりを得ることを目標としている。														◎
17MCEC1004	調査研究計画	1	資料検索などを通じて各人の研究関心を明確にするとともに、研究目的の設定とそれに伴う研究計画の立て方を解説し、受講者は修士学位請求論文作成に向けて実践していく。	1. 自身の取り組むべき関心を見つけ、それを整理して説明できるようになる。 2. 関心ある領域の先行研究を的確に検索できるようになる。 3. 研究目的に応じた研究計画を立てられるようになる。 4. 調査および論文作成上の決まり（論文構成、引用の仕方、参考文献や注の書き方、倫理的配慮など）を知る。 5. アンケート作成の手順を知る。 6. 簡単な統計結果の読み方や検定の仕方を知る。										◎				
17MCEC2005	教育調査・統計法	2	教育に関する調査・統計を行うための基本的な考え方を身に付けるとともに、統計ソフトSPSSを使用したデータ処理の仕方、および統計結果の読み方などについて学ぶ。	1. データの取り方、データの入力、確認の仕方を身に付ける。 2. SPSSを使用して、集計および基礎的検定の操作を覚え、その読み方、解釈の仕方を身に付ける。										◎				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号														
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目														
					1. 知識・理解		2. 技能・表現			3. 思考・判断		4. 態度・志向性							
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2						
17MCEC1101	教育病理学特論	1	臨床教育学分野の主要文献の概要把握。特に関心を持った領域について関連文献によって理解を深める。	研究論文のあり方についての理解。教育問題の概略の把握。	◎	◎													
17MCEC2201	教育病理学演習	2	提供する文献の正確な理解。文献資料の簡潔な整理と紹介能力の育成。	各自の関心領域の文献探索とその理解。	◎	◎													
17MCEC1102	生徒指導特論	1	生徒指導の実践から得られた知見をもとに、今日的課題（いじめ、非行、不登校、ひきこもりなど）の実相を把握し、心理的、社会的アプローチから検討を行い、課題に応える実践のあり方を考える。	1. 生徒指導実践史をふりかえり、当事者理解の概念と方法について理解する。 2. 教育や心理サービス、福祉援助実践における当事者理解の課題を明らかにし、その取り組みの方途を考究する。							◎								
17MCEC2202	生徒指導演習	2	対人援助者の基本的な概念としてケアを検討する。今日、困難な生活や育ちを抱える子ども、若者にかかわる教育・援助場においてその専門性が揺らいでいる。育ちを支えることという基本に立ち返って専門性を考えたい。	1. ケアの実践が育んできた概念について検討する。 2. それぞれの援助実践の場、援助職の専門性をケアの視点から考える。								◎							
17MCEC1103	教育社会学特論	1	教育社会学の歴史や方法論についての理解を深めるとともに、教育実践など臨床の場に生かせる視点や調査方法を検討する。	1. 研究論文の講読、議論を通じて、批判的に文献を検討できる。 2. 方法論の特徴やメリット、デメリットを把握できる。 3. 現場での応用やその注意点について検討できる。 4. 研究内容をコンパクトにレジュメにまとめることができる。	◎	◎													
17MCEC2203	教育社会学演習	2	教育社会学関連の文献講読を通じて教育社会学の考え方や方法論を理解し、実際の調査データの検討を通じて、研究能力および実践に資する力を身につける。	1. 研究目的、研究対象から適切な研究方法を考えられる。 2. 結果の分析を念頭に、適切な研究計画がたてられる。 3. 調査結果の分析や解釈が適切に行えるようになる。	◎	◎													
17MCEC1104	臨床教育学特論	1	発達援助専門職（教師を含む）の人々が自らの実践を記録しその質を深めていく過程を支えることは、臨床教育学の研究・教育の重要な課題である。本科目は、この課題に迫る。	一人ひとりの子どもを他に置き換えられない個性を持った存在、諸々の要素・能力に分割されない全体的な存在として理解しようとしながら、その子が生存・発達・学習のため必要とする教育実践の全体的構想を描こうとしてきた生活綴方教育の実践記録を、熟読し共同で検討することを通して、援助的・教育的な実践の記録のあり方と、子ども（患者、クライアント）理解の基本的な課題を学ぶ。															◎
17MCEC2204	臨床教育学演習	2	受講生のみなさんが臨床教育学の研究方法に関する知見を獲得することを支える。	人間の生存・発達とその援助に関する、「質的研究」の基本的な方法を理解する。	◎	◎													
17MCEC1105	現代教師特論	1	教師受難と呼ばれる時代に入った。旧来の教師像がもはや通用しなくなったのか、今日の社会情勢のなかであるべき教師像が歪められているのか。教育に関する古典を読むことから教師像を再構築していこうと考える。	1. ルソーやデューイが提起する教師論・教育論に迫る。 2. 援助職・教育職としての自己像、実践を省察する。								◎							

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号												
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目												
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性						
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2				
17MCEC2222	学校臨床学演習	2	学校臨床学の分野の中でも、特別支援教育に焦点を当て、学校現場での実践的な問題解決への方法論について学ぶ。支援目標として、学校現場で緊急かつ高頻度に提出されることの多い学校場面における逸脱行動の解消を取り上げる。本授業をとおして、典型的な逸脱行動の解決手段について学ぶとともに、逸脱行動の起こりやすい環境についての理解を深める。	逸脱行動の解決に向けての討議をすることによって、逸脱行動を分析し、効果的な支援の提案をすることが可能になる支援のスキルを習得する。方法としては、事例を提示して実際に事例検討を実行し、専門的知識だけでなく、支援者としての自己分析作業も行う。								◎					
17MCEC1123	児童・青年臨床心理学特論	1	児童・青年臨床心理学に関する領域と対象を取り上げ、より高度な専門性の育成を目標とする。	児童や青年の精神身体的な発達の様相、「大人になる」ことの難しさについて学ぶことを到達目標とする。	◎	◎											
17MCEC1124	コミュニケーション特論	1	児童・生徒が高度なコミュニケーション能力を獲得するための理論と技法について学び、より高度な専門性の育成を目指す。	児童・生徒のコミュニケーション能力の向上に伴い、教師のコミュニケーション能力が向上することを到達目標とする。					◎								
17MCEC1125	教育心理学特論	1	学校臨床において必要となる児童・生徒の育ちと学びの基礎知識と実践のあり方を理解する。本授業では、教育心理学の概念と、教育心理学を構成する諸領域について学習し、それらを通じて、今日の教育現場での問題を検討してゆく。この過程を通じて、学校臨床に必要な問題解決の技能を身に着ける。	本授業では、今日の教育現場で起きている様々な問題を、心理学の視点から分析理解するための基礎知識の習得を目標としている。これらを用いて、授業の中で提示される現場での問題を分析できるようになることを目指す。	◎	◎											
17MCEC1126	心理アセスメントの理論と実際	1	本授業では、心理教育的アセスメントの理論と実践方法について学習した後、実際に学校現場でよく使用される心理検査を経験し、結果の分析、解釈、さらには準備された検査結果から支援計画の作成方法を学ぶ。アセスメントにより正確かつ迅速な現状把握をすること、支援計画の作成が可能なスキルを高めることを目標とする。	アセスメントによく使用される心理検査（知能テスト、投影法テストなど）を自ら体験することにより、測定されているのは人間のどの能力なのかを推測する。アセスメントの結果が反映された支援計画作成を目指す。								◎					
17MCEC1127	障害児・者の教育と心理	1	特別支援教育の実施にとって不可欠である障害児・者の理解を深め、多義に渡る障害について学習、社会性、認知、運動面のアセスメントと支援の方法についての最新の知見を学ぶ。障害特性に即した効果的な支援を実践出来るための知識を習得する。	1. 年齢を問わず、障害特性に即した支援方法を知識として習得する。 2. 各障害について、乳児期から義務教育終了後までの、臨床像を知り、利用できる支援についての情報を把握する。	◎	◎											
17MCEC2128	心理教育アセスメント特論	2	心理教育的アセスメントの必要性から開始し、理論と実践方法についての知識を学習した後、実際に学校現場でよく使用される心理検査を体験し、結果の分析、解釈、さらには準備された検査結果から支援計画の作成を実施する。	教育現場で使用されるアセスメントのための心理検査（知能テスト、投影法テストなど）を学び、測定されているのは人間のどの能力なのかを推測し、その結果が反映された支援計画作成を目指す。									◎				

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	
17MCEC2129	特別支援教育特論	2	特別支援教育の対象は、幅広い。従来の障害の範疇にはいない生徒に対しても、特別な対応ができるだけのアセスメントと支援の方法についての最新の知見を学ぶ。障害特性に即した効果的な支援を実践出来るための知識を習得する。	多様である対象に対して、それぞれの障害特性や習得したスキルに対応した支援方法を知識として習得する。	◎	◎								
17MCEC2223	児童臨床医学演習	2	本授業では、児童の臨床において必要とされる医学領域の知識・最新の研究情報を幅広く習得するとともに、演習を通じて様々な技法を学ぶことを目的とする。典型的な障害に対する基本的な医療的アプローチについて知ること留まらず、受講生の立場にたった可能な支援技法を検討する。	1. 障害に関する基礎知識を習得する。 2. 医療を中心とする他領域の研究成果により、アプローチ方法が変化することを知った上での、自らの専門分野での支援を再考してもらう。	◎	◎								
17MCEC1141	人間・社会福祉学特論	1	「古い」は多様で複雑な現象であり、さまざまな観点から知ることが望ましい。この講義では内容をInterdisciplinary（関連諸学提携）にすることで、「古い」とは何かについて多面から学び考える。また歳を重ねることについて、多角的・批判的思考を用い、自分なりの「古い」に関する考えをまとめる。さらに、様々な背景を持つ人々の「古い」に伴う諸問題について考察し、福祉的介入について考察する。	1. 「古い」の医学的、心理的、社会的側面を理解し、その相互作用を考える。 2. 女性の「古い」、社会的弱者の「古い」など、さまざまな「古い」の特色を考える。 3. 「発達・成長」としての「古い」の側面を理解する。 4. メディアにおける「古い」を分析し発表する。 5. ライフレビューを行い、レポートを書く。				◎						
17MCEC2241	人間・社会福祉学演習	2	ソーシャルワーク・アプローチを理解しておくことは、多種多様な問題を抱える人々の支援を行うにあたり、援助者としての実践力の向上に繋がる。この授業ではソーシャルワーク・アプローチの知識と技能の修得を目標とし、特に中高年のクライアントに焦点を当てながら、人々の多様性を理解し体系的な支援方法を考える。	1. ソーシャルワーク・アプローチの基本概念を理解する。 2. 問題に対する適切なソーシャルワーク固有のアプローチ方法を理解する。 3. 事例研究を通して、ソーシャルワーク・アプローチ方法を検討・分析する。	◎	◎								
17MCEC1142	子ども・家庭福祉学特論	1	近年着目されている「アタッチメント」を軸に講義を展開する。子どもの成長・発達に伴う養育者との愛着形成は、学童期-思春期-成人期-老年期にまで影響を及ぼすことが論じられるようになってきている。近年では愛着関係の脆弱化も危惧されており、愛着障害の問題にも関心が高まっている。子ども（人間）の成長発達と家族を支える方法を臨床教育学的な視点から理解する。	愛着の基礎理解、母子間における世代間連鎖、愛着障害の出現、不適切な関わりと虐待、学童期、思春期に与える影響、成人期以降に与えらるるとされる影響などについて、家族の発達段階を中心に理解を深める。	◎	◎								
17MCEC2242	子ども・家庭福祉学演習	2	子どもの育ちと子育ての課題についてアタッチメント概念を中心においた理解が深まることを目的とする。	1. 我が国における子育て環境の変化を歴史的に捉えながら現代の問題点を理解できるようにする。 2. ライフサイクルにおける子どもの愛着形成とパーソナリティの発達との関係について理解する。 3. 親の愛着的関係の特徴について理解を深める。	◎	◎								

科目番号	科目名	学年	科目目的	到達目標	ディプロマ・ポリシーの項目番号									
					凡例：◎ディプロマ・ポリシー達成のために特に重要な科目 ○ディプロマ・ポリシー達成のために重要な科目									
					1. 知識・理解		2. 技能・表現		3. 思考・判断		4. 態度・志向性			
					1-1	1-2	2-1	2-2	2-3	3-1	3-2	4-1	4-2	
17MCEC1143	臨床福祉学特論Ⅰ	1	臨床福祉学とは、生活困難を抱える人あるいはその事象（その多くは生活全般の状況）に対し、課題の解決・軽減あるいは改善を目指すことを目的とした「社会福祉領域の実践方法への問い」である。本講義では、個人の生活困難の解決或いは改善を目指すためのミクロ的なアプローチの理解に焦点を当てる。	ソーシャルワークの専門性とその固有性について、ジレンマについて理解を深める。ソーシャルワークの価値、倫理、原理・原則を学ぶと共に、実践を展開するにあたっての困難性について、ジレンマの視点から学ぶ。そして、個人の生活困難の解決或いは改善を目指すためのミクロ的なアプローチの理解に焦点を当てる。特に生活困難者の「QOL」が高まるための支援方策、そのために支援者に必要な生活困難者の潜在的な能力（workability力）を見出そうとする「Strength」視点、困難な状況に対処するための「Coping」と「Reframing」視点について理解を深める。	◎	◎								
17MCEC2144	臨床福祉学特論Ⅱ	2	ソーシャルワークの視点を理解しておくことは、多種多様な問題を抱える人々の援助活動を行う上で客観的な視座の獲得に繋がり、その結果として実践力の向上が見込まれる。この授業ではメゾ・マクロの視点に焦点を当て、社会政策・公共政策の影響と研究方法の理解を目指す。同時に、メゾ・マクロ的な社会福祉的活動と研究を行う際の知識の基盤を創る。	1. メゾ・マクロというシステム的な概念を理解する。 2. 社会政策・公共政策について理解する。 3. 研究論文講読を通して、社会政策・公共政策の研究方法を学ぶ。 4. 関心のある分野の社会政策・公共政策を分析し考察する。	◎	◎								
17MCEC1145	教育福祉特論	1	本講義は現代日本の「貧困の実態」と国民が持つ「貧困観」を探索的に理解し、これらが人間の成長発達に及ぼす影響について考察を深めることを目的とする。	1. 現代日本の貧困は「隠された貧困」ともいわれ、正確な実態把握はできていない。さまざまな実態、データ、声を拾い集めながら、貧困への関心を高める。 2. 貧困は個人の責任に帰される現象ではない。社会的要因、政策的要因、教育的要因などさまざまな社会構造と生活構造の元に発生するものであることについて理解を深める。 3. 貧困が人間の成長に及ぼす影響について、主として子どもとその養育・教育環境を中心に考察できるようにする。 4. 家族形態の変化と貧困の関連性について、「再生産」の視点で客観的な理解を深める。 5. 若年出産、養育困難、不適切な養育、虐待、不登校、就学意欲の喪失等の諸問題を1.～4.の視点から分析的に捉えなおすことができるようになる。 6. 「貧困」を「経済的貧困」と「精神的貧困」に構成し直した「貧困の文化」について理解を深める。	◎	◎								
17MCEC1146	社会福祉調査法特論	1	ソーシャルワーク実践は、基本的にクライアントとのコミュニケーションを通して、クライアントと共に、クライアントが直面する問題や課題の所在を探り、その解決を図ろうと試みる。この実践の特徴はソーシャルワーカーが質的調査に着手する上で強みとなるが、研究者として調査にあたる場合は方法論の理解だけでなく、実在論や認識論といった理論的背景の理解が重要である。また医療領域と同様、ソーシャルワークもEvidence-Based Practice（EBP：証拠に基づく実践）が求められている。こうした現状を踏まえ、本講義では質的研究パラダイムの理解、基本的な方法論の理解、また質的調査結果の普及に関する理解を深め、質的調査の視点を学ぶ。	1. 質的調査の研究パラダイムについて理解する。 2. 質的調査方法を体験する。 3. 質的調査結果の普及について現状を知る。 4. 量的調査と質的調査の違いについて理解する。								◎		